

グリーンサークル 42号

| | |
|-------------|---------------|
| クローズアップ | 赤羽 誠 |
| 活動団体紹介 | からきだの道の会 |
| 講座紹介 | 多摩の雑木林を歩く春編・桜 |
| 多摩市みどりのかわら版 | 上原 唯 |



～クローズアップ～

多摩市グリーンボランティア連絡会 代表就任挨拶 ～創設10周年を迎えて～

多摩市グリーンボランティア連絡会 代表 赤羽 誠

テイカカズラ

2021年4月、前任の川添修氏から代表を引き継ぎ、多摩市グリーンボランティア連絡会の代表をお引き受けすることになった赤羽誠です。



赤羽 誠氏

2011年（平成23年）3月に多摩市グリーンボランティア連絡会は（以下、GV連絡会）、多摩市立グリーンライブセンターの市・大学・市民の三者によるグリーンライブセンター連携推進協議会に参加し、グリーンライブセンターの運営に市民の立場で携わる団体として創設され、2021年4月で満10周年を迎えることになりました。

GV連絡会は、2011年当時、廃止の危機にあった多摩市立グリーンライブセンターの存続を目指し、約1年半かけて多くの市民の皆さんと話し合い、存続に向けて市民としての意志に合意するとともに、存続に向けた行動を共通理解として、多摩市環境部と「みどりと水」に係る活動の協定等を結んでいる市内13の団体（2019年10月、12団体）で創設された任意団体です。

GV連絡会は、グリーンライブセンターの業務として、

- 多摩グリーンボランティア森木会と多摩市公園緑地課が協働で開催している多摩市グリーンボランティア講座を事務局として開催、サポート
- 市内の公園緑地の雑木林で活動するグリーンボランティア活動のサポート
- GV連絡会の構成団体をはじめとして、みどりと水に係わる市民団体の活動サポート
- 市民企画の講座・イベントをGV連絡会構成団体の協力を得ながら開催

タケノコと遊ぶ、緑の探検隊、クリスマスリース作り、ドングリ工作、竹のクラフト、朴葉寿司講座、めかい講座、街の大きな樹を巡る、多摩の雑木林を歩く、グリーンボランティア体験講座、ロケットストロブ講座、夜の雑木林観察、里山勉強会、花と和

菓子講座、ミツバチ講習会、初めてのバードウォッチング、野鳥絵教室など

- こどもまつり、ハロウィンイベントなどを市・恵泉女学園大学と協力して実施
- グリーンライブセンターの事務室他の運営業務などを行ってきました。

グリーンライブセンターは2022年度（令和4年度）から約2ヶ年かけて改修され、2024年（令和6年）にリニューアルオープンの手配となっています。また、既存の活動団体についてみると会員の高齢化と人数の減少に伴い、今後の活動が危ぶまれる状況が見えてきたところもあり、活動の継続・世代交代が大きな課題となってきました。さらに、社会情勢の変化に伴い若い人々のみどりに係わる活動への新しい参加方法も考えなくてはならない状況がみられます。

このような状況で、グリーンボランティア連絡会もグリーンライブセンターの改修後、さらに、今後10、20年に向けて、グリーンライブセンター運営の市民参加の方法を見直し、グリーンライブセンターがみどりの集い・憩い・学びの拠点として持続、発展していくことに寄与することが必要となります。

下記の市民参加の目的を再確認、見直ししながら、みなさまのご協力をいただいで、これからも市民のため・市民自らグリーンライブセンターの運営に携わっていきます。

多摩市立グリーンライブセンターの市民参加の目的

- 市民自ら、市民の立場から、持続的かつ発展的な運営に携わる
- 市民自ら、市民利用の増進に寄与する

グリーンライブセンターの施設の存在意義・コンセプト・事業内容について、市・大学と協働して市民のためのグリーンライブセンター運営に携わります。持続的な運営方法・市民利用の内容は、時間・環境により変化していくので、常に、市・大学と連携して見直していきます。

～活動団体紹介～

からきだの道の会

からきだの道の会 幹事 近藤 眞澄

からきだの道の会は今年創設 10 周年を迎えます。これまでに実施した 10 周年記念事業(I～IV)とユニークな「カブトムシの授業」の取り組み(V)について紹介します。

I 『からきだの道散策ガイド』第三版の発行

2014 年に初版発行以降、2 回目となる改訂版です。表紙を一新し、唐木田が属していた「落合村」の歴史やからきだの道周辺の移り変わり、からきだの道の将来イメージなどを追加掲載しています。「落合村」の歴史の詳細については、『「落合村」の歴史と伝承』と題した別冊も同時発行し、本編とセットで無償配布中です。



『からきだの道散策ガイド』第三版 別冊『「落合村」の歴史と伝承』

II 「からきだの道パネル展」の開催

『からきだの道散策ガイド』第三版の発行と同時に、からきだの道の紹介を兼ね、当会の活動など広く知って頂くことを目的に、本編の内容を大型パネル化して、2 月 15 日～4 月 11 日まで唐木田コミュニティセンター「からきだ菖蒲館」1 階壁面に展示しました。期間中、ご覧になった多くの方から感謝と激励の言葉を頂き、大いなる励みになっています。また、当会の活動において有害害虫対策などでお世話になっている“昆虫博士”篠永先生自らからきだの道周辺にて採集された昆虫の標本展示も好評で、引き続き唐木田児童館にて公開中です。



からきだの道パネル展(からきだ菖蒲館にて)

III 「唐木田の歴史セミナー」の開催

からきだの道がある唐木田地区は、多摩ニュータウンの中でも最も変貌を遂げたエリアです。からきだの道は、先祖代々にわたって暮らしてこられた方々からの“唐木田の歴史をからきだの道に留めたい”との強い要望を取り入れて計画された緑地でもあります。本セミナーは地域の歴史を地域の方々に伝えようと、パルテノン多摩学芸員の橋場万里子様をお招きし、当会の大石会長と浜橋氏も講師として加わり、唐木田の中世の歴史と伝承、更にニュータウン造成工事前後の情景写真の紹介を行いました。4 月 4 日、予約制でのオンラインセミナーとなりましたが、40 名程ご参加頂きました。



からきだの道周辺で採集された昆虫の標本

IV 砦山(とりでやま)のリニューアル

昨秋、公園緑地課と協議の上、砦山再生計画をまとめ、密生し景観を損ねていたマダケ林の伐採とサイン(解説板)の更新を行いました。今後、散策路に沿ってアジサイ群の更なる延長拡大、ヤマザクラなどの植樹、府中カントリークラブ(ゴルフ場)との境界部にある万年堀へのヒメイタビカズラ(つる性植物)による壁面緑化等々、再生に向けた取り組みを行う予定です。



砦山のサイン(更新後)

V 「カブトムシの授業」

最後に、近隣の大松台小学校より“地域の自然への興味を持てるような取り組みをしたい”との意向を受け、毎年実施している「カブトムシの授業」を紹介しましょう。3年生になると、4月に大会メンバーからカブトムシの生態や育て方を教わった後、からきだの道の「かぶとむしの林」にてカブトムシの幼虫を受け取り、学校や家庭で育てます。7月に成虫を「かぶとむしの林」に放し、12月に落葉掻きをして翌年の幼虫床となる腐葉土を作ります。カブトムシの飼育や腐葉土作りなどの体験を通して、カブトムシの生態だけでなく雑木林の関係を学習し、学期末には自ら学んだことを2年生に発表し、次年度へと引き継がれます。



「かぶとむしの林」での校外学習

～講座クローズアップ～

多摩の雑木林を歩く春編・桜

講師 田村 薫

当初予定していた2020年3月から、一年越しで開催にたどり着くことができました。ご参加いただいた市民の皆様、講師の方々、企画、運営いただいたスタッフ、雑木林案内役のグリーンボランティアの方々に感謝いたします。

私自身、いつもは事務局スタッフとして参加しておりましたが、今回は「講師」の肩書のもと、百戦錬磨の先輩講師の方々の末席に加えていただきました。期待に応えられるよう、自分の持っている豆知識を総動員し、雑木林観察の楽しさを存分にお伝えするべく講座に挑みました。参加された皆さんも木や草花にご興味のある方ばかりでしたので、植物談議に花を咲かすことができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。

満開の桜並木、真っ盛りの早春の山野草、芽吹き始めた樹木、を愛でながら終点のからきだの道 ヤエザクラの原っぱまで快適に歩くことができました。改めて、多摩市のみどりの多さ、種類の豊富さに感心しました。参加された方々も同じように感じられたのではないのでしょうか。



多摩の雑木林を歩く春編・桜 満開の桜の中を歩きます

さて、今回の講座のテーマ、多摩のみどりを身近に感じながら歩く方法の一つとして、「マイツリー（自分の木）を巡るウォーキング」をお勧めします。

方法はいたって簡単。ご近所を散歩しながらお気に入りの「マイツリー」を見つけます。無事見つけたら、季節を通して定期的にマイツリーたちに会いに行くという歩き方です。四季折々の表情を見せてくれる樹々たちに感動を覚え、その樹についていろいろと調べてみたくなり、愛着が湧いてきます。今日は何の樹に会いに行こうかと計画するのも楽しいです。

私も家から気軽に歩いて行ける範囲に何本か、マイツリーを持っています。生まれたての実生のころから十年以上通っている樹や、散歩の途中で、わずか一週間ほどの花盛りの時期に偶然出会ってしまい、すっかりファンになった樹もあります。花が咲いていないときはまったく目立たない樹なのですが。

コロナ禍で遠出もままならない昨今、気分転換や健康維持を兼ねて、お住いの近所をウォーキングしながら「マイツリー」を探してみたい方が多いのではないでしょうか。



実生（10センチぐらい）のころからの付き合いのマイツリー

公園緑地課にいただくお問合せから学ぶこと

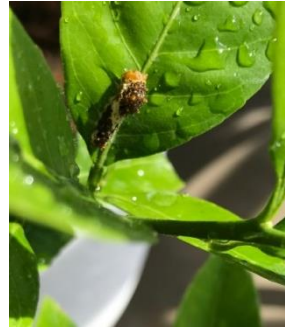
多摩市 環境部 公園緑地課 上原 唯

公園緑地課の上原と申します。令和3年4月から配属となりました。公園緑地課には、様々な職種の職員が公園や緑地の整備・管理に携わっており、私は事務職でございます。事務職が現場に出る業務もありますが、私は市役所での業務が多いので、公園緑地課にお電話をいただきましたら、私がお対応することが多いかもしれません。一刻も早く一人前の対応ができるよう精進してまいります。

私が担当する業務は、公園をつくる時の事務手続きや市内のみどりのあり方を考えていくというものです。公園ができる前段階の目には見えないけれども土台となる業務ではないかと思っております。しかしながら、多摩市で幼少期から学生時代を経て、社会の厳しさを知るなど人生の大半を過ごしてきましたが、恥ずかしながら市内に208の公園や緑地があることに驚き、知っている公園も育った地域のごくわずかであったため、現場をよく知っている職員に聞きながら仕事を進めております。

日々公園緑地課にいただく電話をとりますと、公園の清掃をしていただいたご連絡や、公園について（例えば職員が現場を確認したほうがいい箇所や様子など）のご連絡をいただきます。いただいたお電話から、公園を大切にご利用されていることがわかり、メモするたびに、公園の名前、場所、状況を知ることができます。公園やみどりのあり方を検討していく際には、ご利用される皆様のご意見やお考えを取り入れていけるよう努めていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本紙に記事を書いていただくにあたり写真も掲載できることになっております。身近なみどりということで、実家のベランダの植木にやってくるアゲハチョウをご

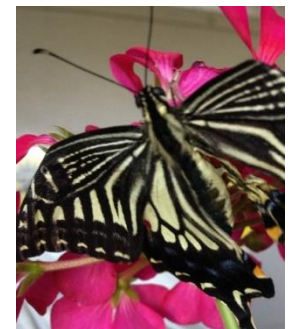


白黒で鳥のフニに擬態



緑色に変身

紹介します。春から夏ごろ、ミカンとサンショウの植木にきてくれて、葉が足りなくなるのではないかと思うくらいよく食べます。今年も元気なアゲハチョウがやってくることを楽しみにしています。



羽化して羽をのばしている
ときにシャッターチャンス

編集後記 ～ふたつとないもの～

蒸し暑い季節がやってきました。その後にやってくる酷暑を想像すると、少々とまどいを感じますが、そんな暑さをしばし忘れさせてくれるような佇まいで、アジサイの季節がやってきました。

アジサイの色といえば何色でしょうか。いろいろな色が思い浮かびますが、大きく分けると青系、赤系、白でしょう。濃い青紫色のアジサイを見かけると、色の深さについつい見入ってしまいます。

アジサイの色は土壌の酸性度によって変化します。アジサイの色素に「アルミニウムと結合すると青くなる」性質があり、アルミニウムは酸性土壌には溶けやすく吸収しやすいですが、アルカリ性土壌には溶けにくい。つまり酸性土壌ではアジサイは青系となり、アルカリ性土壌では赤系となるようです。また、古木になると、アルミニウムを吸収しづらくなるため、アジサイは赤系となるようです。

白いアジサイは、もともと色素を持たないようで、どんな土壌でも染まらないとか。

からきだの道のアジサイが見頃を迎えます。どんな色のアジサイがみなさまをお出迎えするのでしょうか。（まつ）

表紙の絵

「テイカカズラ」絵・内城葉子

常緑のツル性植物。他の樹々等にツルを伸ばして成長します。甘い香りを漂わせ白色からクリーム色へと変化する移りも楽しめます。秋、細長い実をつけます。

<プロフィール> 1949年東京生まれ。1986年国立科学博物館第2回植物画コンクール文部大臣奨励賞、1989年世界らん展ボタニカルアート部門ブルーリボン賞、英国王立園芸協会ロンドン・フラワーショーGold Medal 受賞など

<所属>日本ボタニカルアート協会、日本植物画倶楽部、どんぐり山を守る会代表

<著書>「鏡の中-俳句と植物画」共著、2005年新風舎。他、絵本や学習図鑑などに描画。雑木林などの活動を通じ、実際の木々や草花に触れることが細部に及ぶ精密な描写となり、植物本来の温もりを感じられる作品が特徴。

多摩市グリーンボランティア通信

グリーンサークル 42 号

発行日：2021年5月30日

編集・発行責任：

多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局

〒206-0033 東京都多摩市落合2-35 多摩中央公園

多摩市立グリーンライブセンター内

電話 042-375-8716 FAX 042-375-0087

ホームページ <http://www.keisen.ac.jp/tglc/>